

伊藤警官察部長談

労働争議取締方法等は警官察部としては最も慎重な態度で決せねばならぬ
因島争議に対する本縣警官察部の態度を軟弱或は不徹底と非難を為すものもあ
るといふが大は今日の労働問題の取扱方を解せぬ人の云ふ事下労働争議の如き社
會問題として最も困難なものも警官察部で高圧的に解決出来る等と考へて居
るのが既に間違だから私としても因島問題に對する態度は彼等の良心と理智
の支持する範圍に於て彼等の自由意思の向ふ所に委かせてゐる。

岩本學務課長談

争議の根本は知らぬが何にしても義務教育中の子弟を争議の渦中に捲き込ん
でしまつた事は尚に遺憾に堪へぬ之が善後策に就ては上司は考究中である
が彼れこれ干渉が多い事を甚だしいで當分此儘放任し置くより外仕方あるまい。

六月十七日 大阪朝日新聞記事

争議から學業を休校 持久戦で生活窮迫した因島三庄
争議因の通告

大阪鐵工所因島及び三庄兩工場に於ける労働争議は遂に持久戦に入り何時解
決するや全く豫測を許さぬ状態に在つたが最近多少悪化の傾向あり争議
因本都下は十四日附内容証明郵便で山縣廣島縣知事宛「生活漸時窮迫し来つ
たので已むなく十六日より小學校生徒を休校せしめるとの意味の通告をな
し来り十六日朝それが到着したので縣當局では善後策につき一層心中である
因に土生三庄兩所小學校児童は約五十名あつてその大部分のものは労働者
の家庭のものである。

六月十八日 大阪毎日新聞記事

新條件を提出して否方ら工場を閉鎖

態度強硬の會社側、その後の因島工場争議